

## BIMデータ連携WGメンバー \*社名順

福田 篤	株式会社 安藤・間	小川 裕介	東急建設 株式会社
垣内 延介	株式会社 大林組 (WGリーダー)	原 康輔	西松建設 株式会社 (WGサブリーダー)
三宅 正人	株式会社 大林組 (WGリーダー補佐)	佐藤 浩介	株式会社 長谷工コーポレーション (WGサブリーダー)
遠藤 元樹	株式会社 熊谷組 (WGサブリーダー)	神山 翔太	株式会社 フジタ ~2025.10.01
伊野上 太一	株式会社 鴻池組	芳中 駿	株式会社 フジタ 2025.10.01~
藤岡 杏	五洋建設 株式会社	藤井 周太	前田建設工業 株式会社
大越 潤	清水建設 株式会社	岡田 義樹	三井住友建設 株式会社
堀口 衛	大成建設 株式会社		

## 謝辞

本資料を作成するにあたり、鉄骨FABの皆様・作図会社の皆様にはお忙しい中WGに参加頂き、貴重なご意見を頂戴しました。

皆様のご支援に心より感謝致します。

# 設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー

## 鉄骨工事編



一般社団法人 **日本建設業連合会**  
JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-8-5 東京建設会館5階  
ホームページ <https://www.nikkenren.com/>

©2026 一般社団法人 日本建設業連合会  
本書の無断複写・複製（コピー等）は著作権法上の例外を除き、禁じられています。



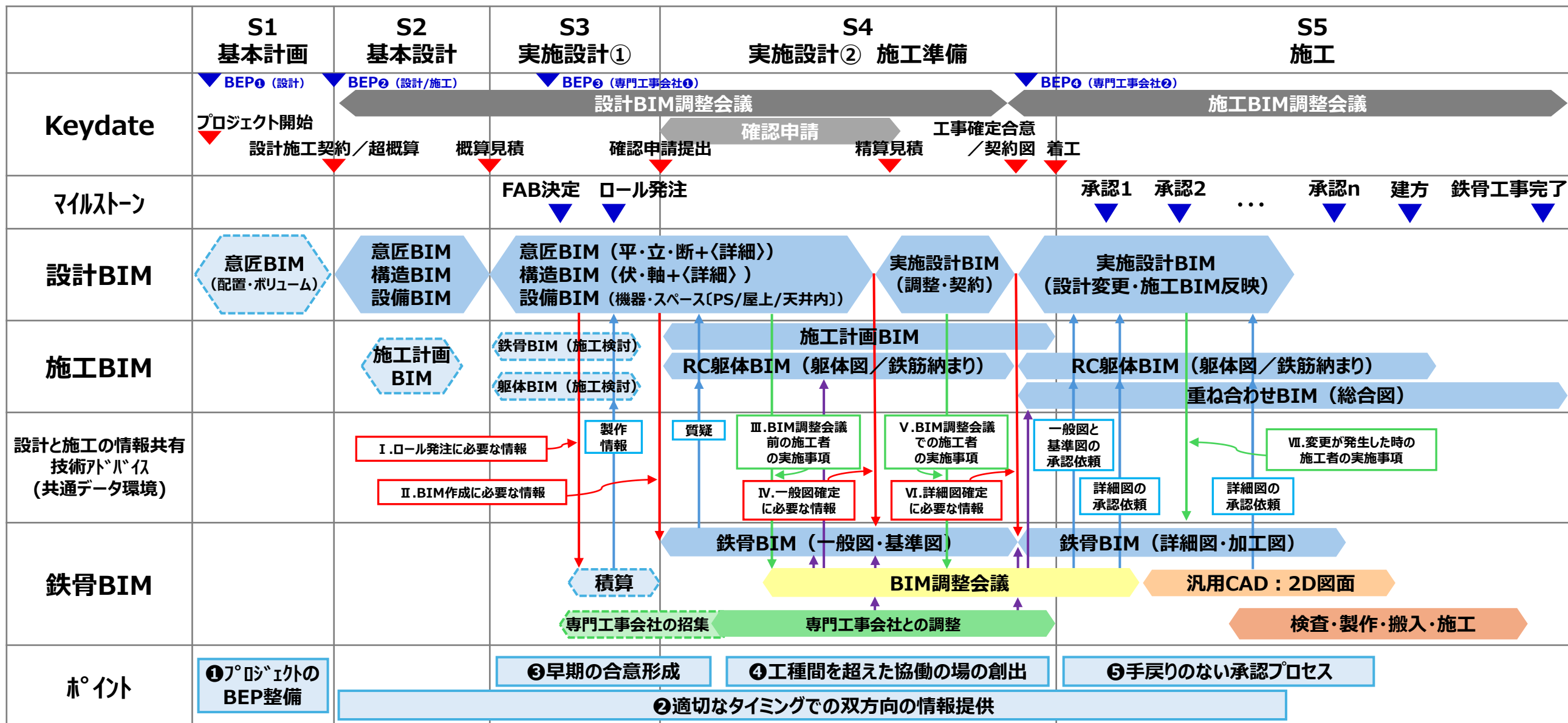
一般社団法人 **日本建設業連合会**  
JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS

**建築生産委員会 BIM部会**

**BIMデータ連携WG**

# 鉄骨工事：BIMによる設計部門と施工部門の共創（例）

※ワークフローはプロジェクト毎にBEPで決めるため、本ワークフローはあくまでも一例



→ : 施工者が提供    → : 施工者の実施事項    → : FABが提出    → : 施工者とFABと専門工事会社の協議情報    → : BIMを活用した場合を示す一例  
 前提条件：①設計施工一貫方式で建物規模は中規模 ②FAB決定後のワークフローとする ③鋼材の納期は考慮しない ④設計者、施工者、FABはBIMを通常に利用している

※設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー(第3版)に準拠  
 ※BIMデータ連携WG 2025年度 活動報告 参照推奨

## 各フェーズにおけるポイント

- ①プロジェクトにおけるBEPの整備 (S1)**  
 初期段階で設計者と施工者が協議し、BEPを整備する。FABごとにBIMの応用レベルが異なるのでLODのルールを明確化し、BEPに明示することが望まれる
- ②適切なタイミングでの双方向の情報提供 (S2~S5)**  
 設計情報・施工情報の提供(施工者側)や、製作情報の提供・納まりに関する質疑(FAB側)等を適切に遅滞なく実施する。段階的に問題を解決していくことで正しさが保証されたBIMに整えていく
- ③早期の合意形成 (S3)**  
 もの決めの遅延による工程の逼迫が鉄骨工事における喫緊の課題。ただし、「負荷の前倒し」ではなく「課題の発見とその解決の前倒し」を目的とすることが肝要である
- ④工種間を超えた協働の場の創出 (S4)**  
 専門工事会社のプロジェクトへの参加が遅れると調整による変更が必ず発生する。BIMを用いて垣根を超えた調整と協働の場を提供する
- ⑤正しさの保証で手戻りのない承認プロセス (S5)**  
 BIMの可視化性、情報正確性を最大限活用し、監理者との合意形成を着実に進めることでスムーズな承認行為が達成される

## 各フェーズにおいて施工者が実施すべき内容の一例

I.ロール発注に必要な情報	II.BIM作成に必要な情報	IV.一般図確定に必要な情報	VI.詳細図確定に必要な情報
設計BIM (ロール発注段階) 建物の基本情報 構造種別・構造形式 製鉄方法の指定(高炉or電炉) 構造符号 部材形状と数量 鋼材の種類 ボルトの種類と数量	設計BIM (確認申請段階) 鉄骨基準図 溶接基準図 部分詳細図 施工計画図 工区割り BIM化する範囲	設計BIM (見積図段階) 柱脚の納まり めっき・塗装範囲 シーム位置 附帯鉄骨関連 設備スリーブ・鉄骨階段 EV・ESC・内外装関連 等	設計BIM (契約図段階) その他附帯鉄骨関連 母屋・胴縁 デッキ受け・スラブ段差下地 間仕切り受ピース 仮設ベース 等
III.BIM調整会議前の施工者の実施事項	V.BIM調整会議での施工者の実施事項	VII.変更が発生した時の施工者の実施事項	
BIM調整会議の目的の明確化 工程に沿った開催スケジュールの設定 承認フロー・承認責任者の合意 確認対象範囲・確認手法の合意 チェックリストの作成 設計者・監理者・施工者の事前チェック データ共有環境の設定	BIM調整会議の目的・内容の再確認 チェック結果の共有 複雑な納まりの確認・合意 合意事項・未解決事項の整理と対応 BIM確認後のスケジュールの合意 BIM・議事録の管理 BIM調整会議の効率化	関係者への情報共有・連絡 変更内容の把握と影響範囲の特定 コスト・工程への影響確認と調整 製作・施工の一時停止指示(必要時) 図面・BIM修正および内容の可視化 変更を反映した図面の承認取得 変更内容・対応履歴の記録・保管	